

令和2年度 東京都立三宅高等学校 学校経営報告

校長 森田 正男

「努力・信頼・継続」を校訓として、高い理想をもち、人間性豊かで平和な未来を開拓していく人材の育成を目指し、教職員一丸となって取り組んできた結果です。今年度の重点目標と方策について、結果を検証し、反省・改善を加え、次年度へ反映させ、学校全体で組織的に取組、今後も「島の宝」を育てていきます。

令和2年度の数値目標		2年度結果	元年度	←	30年度	←	29年度	
1	・学力を伸ばすための指導がなされているか肯定意見	100%	80%	95%	←	85%	←	90%
2	・学校生活の満足度肯定意見	100%	80%	75%	←	73%	←	72%
3	・朝読書への取り組み肯定意見	100%	45%	65%	←	89%	←	66%
4	・資格取得（卒業まで） 英検3級、漢字検定3級、ワープロ検定3級、数学検定準2級、農業技術検定3級、家庭科技術検定3級のいずれかに合格	70%以上	5% (1/20名)	60% (3/5名)	←	33% (4/12名)	←	75% (9/12名)
5	・三宅小・中学校との連携が図られているか肯定意見	90%以上	72%	75%	←	73%	←	69%
6	・希望進路の実績	100%以上	89%	100%	←	93%	←	92%
7	・部活動や行事満足度	100%以上	85%	95%	←	93%	←	72%
8	・健康安全に対する指導満足度	100%以上	89%	90%	←	92%	←	91%
9	・保護者・地域への情報発信	95%以上	72%	75%	←	77%	←	78%
10	・施設・設備への取組	100%以上	83%	70%	←	66%	←	65%

今年度の重点目標と方策に対する評価

【評価基準】 A：目標レベル以上に達成できた、B：ほぼ目標レベルに達成できた、
C：目標レベルを少し下回った、D：目標レベルを大幅に下回った

項目	自己評価	達成状況	結果・反省・改善等	
今年度の重点目標	1	B	卒業生9名中8名が進路を決定することができた。その内訳は、4年生大学（私立）3名、就職2名、専門学校3名である。	希望の進路実現は89% 進路指導部を中心に、個別指導を強化し、今後も全校体制で指導に当たる。
	2	B	進路指導部を中心とする組織的な指導体制が整ってきた。大学受験に対応した補習・講習の実施、ケース会議の開催による個々の生徒の学力の共通認識及び把握、放課後や長期休業期間中、土日の学習指導を継続してきた。	学力を伸ばすための指導がなされている肯定意見80% 大学進学希望者に十分な学力が身に付けられていない現状がある。引き続き、学力の定着を目指し、学習活動の充実を図っていく。
	3	B	日常生活から規範意識の向上が、地域・保護者の理解・協力のもと、十分図られている。今年度、ほとんどの学校行事や部活動が十分に行えなかった中でも、限られた行事や部活動で、生徒会を中心として、工夫した取組が大きな成果へとつながった。	学校行事に楽しく積極的に参加しているか85% 全校体制で生徒の健全育成に取り組む。
	4	B	朝読書は、継続的に実施し、定着が図られてきた。2年生の総合的な学習の時間で行ってきた内容を今年度もマイ・プロジェクト・アワードに応募し、関東大会へ2名が出場できた。3年生の農業科課題研究では十分な成果を上げることができた。英語検定では、2級に1名が合格した。	今年度卒業生が各検定に合格した割合0% 生徒の自主的な学習活動へ繋げ、学力向上を目指していく。
	5	B	本校農場を使用した保育園、小中学校との芋ほり体験、教員による小中学校公開授業参観、中学校での学校	三宅小中学校との連携が図れているという肯定意見72% 連携内容の工夫を図り、三宅

			説明会、生徒による中学校への訪問説明会、中高合同英語検定、保小中高合同作品展、教員による保小中高一貫教育推進委員会への参加を実践・実施した。	村保小中高一貫教育推進委員会を活用した生徒確保に取り組む。
	6	避難訓練、火山学習等を通して防災安全教育の充実を図る。	B 新型コロナウイルス感染症予防措置の対応で、避難訓練は書面を中心とし、工夫して実施した。宿泊防災訓練は中止となった。緊急事態宣言解除後、3月に消防署と連携して消火訓練を実施した。東日本大震災から10年の節目を迎え、あらためて防災への意識醸成を図った。	健康安全に対する指導満足度89% 避難訓練を活用し、危機管理体制の強化と防災への意識の醸成、地域と連携した防災教育を推進していく。
	7	いじめ・体罰を根絶させる	A 生活指導においては、特に大きな問題点はなかった。朝の立ち番等で毎日の生徒の様子を生活指導部が確認した。集会等での生徒への働きかけを通して問題行動の未然防止に努めた。教員による教育相談委員会を活用した情報の共有を行い、生徒の状況観察に努めた。部活動へは全員が入部し、限られた活動を行い、限られた学校行事しか行えなかったが、積極的な参加が見られた。	いじめ・体罰への取組55% 学校生活に対する満足度76% いじめ・体罰0を常に掲げ、学校全体で継続的に取り組んでいく。
	8	島民との交流による三宅島の復興への寄与	B 学校だよりを年間4回発行、ホームページの更新、Twitterの配信を日常的に行った。学校だよりを島民全戸に配布し、三宅高校での取組を広くPRできた。今年度、村の行事も中止であったため、行事をとした地域との交流を行えなかったが、連携できる関係機関とで取り組めた。	学校の情報を保護者、地域に積極的に発信している72% 情報発信の工夫・継続・内容の充実を図っていく。
	9	オリンピック、パラリンピック教育を推進する。	C 新型コロナウイルス感染症により、オリンピック・パラリンピックが延期となり、今年度予定した行事はすべて中止となった。関連教科での授業を中心に実施するにとどまった。	関連行事への参加や校内での推進体制を強化していく。講演会の開催や小中との連携した取組を推進していく。関連教科を中心とした日常的な啓発に努めていく。
	10	特別支援教育の推進	B 教育相談・特別支援教育に関する委員会を開催した。全教職員が情報を共有し、生徒理解に努めた。	委員会の開催回数年12回 教育相談を含めた指導体制と情報共有を強化していく。
	11	ライフワークバランスを推進し、教職員の働き方改革を醸成する。新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、予防措置を講じた教育活動の取組に尽力する。	A 勤務時間外の労働時間削減を掲げ、実践してきた。年休・夏休取得も推進できた。新型コロナウイルス感染症予防措置を高じた教育活動を柔軟に実践できた。	ライフワークバランスへの取組に関する肯定的推進意見多数 次年度以降も推進に向けた取組を強化する。 感染症対策予防措置を継続していく。
方策	1	・1学年からキャリア教育を充実させ、進路ガイダンスや外部模試を実施し、生徒の進路意識を高める。	B 進路指導部による全5回の進路ガイダンスや学年による個別面談等により、早い段階から生徒の進路に対する意識向上を促すことができた。それぞれの進路に応じた細かい指導を実践できた。	生徒自身の個々の適正に応じた指導の実践を継続する。
		・移動教室において、外部連携をはかり、職業観を高める。	C 1年生での移動教室が中止となり実践できなかった。ハローワークとの連携やオンラインでの外部講師を入れての進路講話等を通して、生徒自身が自分の進路に対する意識改革が図られた。	内容の精査を行い、次年度へつなげていく。中学校とも連携を継続し、強化していく。
		・全生徒を対象に、希望進路実現に向けた個別プログラムを組み、進路指導部を中心として進路実現に向けた講習・補習を行うと同時に保護者対象の講演会を実施する。	B 進学指導部を中心に各個人の希望進路に沿ったケース会議を実施した。特に進学希望者については、情報共有を図ることによるきめ細かい指導へつなげることができた。	大学進学者に対する学習支援を継続し、校内での指導体制、補習・講習の時間を十分確保し、さらに強化する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中、週休日等に組織的・計画的な講習・補習を行い、基礎学力の定着を図るとともに、大学受験等に向けた実力を養成する。 	C	生徒の状況に応じた補習・講習を実施できた。基礎学力定着に向けた取組、さらに進学希望者への学習対策活動を実践できた。	生徒の自主自立的な学習へ繋げる学習支援を継続し、学力向上を図っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・英数国理社について、学力スタンダードによる分析及び学力向上委員会を中心としてアクティブラーニングを取り入れた授業実践を展開し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善等に取り組む。 	B	PC による教育支援教材の導入により若手教員を中心として、授業力向上の必要性を図ることができた。また、教員個々の授業見学の実践により、授業の工夫が図られている。ICT を活用する授業が増え、視覚に訴える授業を実践できた。	教務部・進路指導部の連携を強化していく。 授業力向上に向けた相互授業参観・研究授業等を継続していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間・研究授業等を実施し、授業についての研修を行う。 	B	授業公開週間は中止となった。小中学校の研究授業を参観したことで、教員の意識向上が図られた。研究協議での意見の交換により、授業改善に繋げることができた。	生徒の興味・関心を高める授業実践を継続していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大学受験希望者に特別講習・補習・個別指導を行う。 	B	放課後、土日、長期休業期間を含めて、ほぼ毎日のように個別的な学習活動が実践できた。	補習・補講を継続的に実施していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習により家庭学習の習慣を身につけさせる。 	B	授業時間以外での定期的な学習を実践できた。定期考査前の管理表の提出を通して、家庭でも計画的な学習習慣の確立が図られてきた。基礎学力の定着にはつながった。	計画的に学習させる習慣を身につけさせ、自主的な学習習慣の確立へ向けて引き続き支援体制の強化を図る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習管理表を活用して、PDCAサイクルを回した学習を行い、基礎学力を向上させる。 	B	学習管理表の提出を通して、定期考査の結果による個別面談等を実施した。継続的に指導を加えたことで、少しずつではあるが成果が見られた。	学年・教科の連携を強化し、基礎学力の定着を図る取組を強化する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼、日常の指導の充実及び強化週間等により組織的な生活指導を推進し、時間厳守の徹底・挨拶の励行・授業規律・頭髪服装身だしなみ指導の徹底、道徳心、愛校心の涵養を図る。 	B	月1回の朝礼は自粛した。日常的に生徒とのコミュニケーションを図り、愛校心を育てることに繋げた。生活指導部を中心とした朝の登校指導で、生徒の状況観察を常に行った。規範意識の向上を日常的に実践した。	生徒の規範意識向上への取組を継続し、健全育成を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が清掃指導にあたり、学校美化に努める。 	A	生徒が自主的によく動き、清掃活動を行った。全教員による指導で校内美化意識も高まった。	継続的に指導を実践していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談委員会を中心にスクールカウンセラーと連携をとり、指導の充実を図る。 	B	養護教諭を中心として、SC を交えた教育相談委員会を定期的開催することができた。校内での情報共有が図られた。	関係部署との連携を強化し、情報共有を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対策委員会との連絡を中心に教職員のアレルギーへの理解を深め、保護者との連絡を密にする等、指導の充実を図る。 	B	養護教諭と関係教員で事前に把握し、共有化を図った。	学校全体での情報共有を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、学校行事を更に充実させる。 	B	部活動は、活動自粛等もあり、十分な活動には至らなかったが、大会への参加ができた部活動もあった。限られた学校行事について、生徒の工夫した取組が成果を上げた。	生徒の自主性をさらに磨き、工夫した取組を実践していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・委員会活動指導の充実を図り、生徒の自主的な活動の支援を積極的に行う。 	B	校内での限られた取組の中で、自主的な生徒会の活動は実践できた。教員の丁寧な指導により、生徒の実行力が高まった。	行事や委員会活動を生徒の自主性で運営できるように、継続した指導を実践する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に積極的に参加する。 	B	保育園・小中学校との芋ほり体験活動は実施できた。保小中校合同作品展は実施できた。村の行事が中止となったため行事を通した実践はかなわなかった。	保小中との連携については内容等を工夫し今後も継続していく。状況に応じて、村の行事への積極的な参加を促していく。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書を全校一斉に実施し、読書習慣を身につけさせる。 	B	朝の授業前の時間を活用した読書活動や学習活動を実施した。習慣化を図ることができた。	生徒の自主的な取組へとつなげていく。内容について検証し、工夫していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトル(書評合戦)の校内予選を行う。 	D	校内選考会は自粛のため中止となった。	次年度、指導内容の工夫を図り、柔軟な指導を行っていく。読書習慣への取組に繋げていく。

	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定・数学検定・英語検定・ワープロ検定等の受検者の指導を通して、基礎学力の向上を図る。 	B	英語検定への受験は実施できた。指導を通して、基礎学力向上に繋がられた。	指導の工夫で、より多くの受験者を確保していく。中学校との連携を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 農業実習、プランターの提供、本校生徒による保育実習等を行う等、保・小・中との連携を推進する。 	B	保小中との芋ほり体験や体験入学を実施できた。保育実習は自粛のため中止となった。	内容等を工夫し、継続的な指導の強化を図っていく。
5	<ul style="list-style-type: none"> 中高6年間を通した学力向上・キャリア教育等の方策について、村の保小中高一貫教育推進委員会を中心に推進する。 	B	保小中高一貫教育推進委員会の活動を見直した。見直しの内容について、保小中の中で共有ができた。村との連携について、次年度へつながる取組が実践できた。	保小中高一貫教育推進委員会に積極的に参加し、中学校との連携の工夫とより一層の強化を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 中学生とその保護者対象の学校説明会・体験授業、部活動交流、中高合同検定試験の実施等により中学校との連携を推進する。 	B	学校説明会を中学校の保護者会と合わせて中学校で開催した。農業科・家政科による体験入学会は開催した。部活動の交流は自粛した。英語検定試験を中学校と合同で実施できた。	連携の内容を工夫し、今後も継続的に検証しながら充実させていく。
	<ul style="list-style-type: none"> マラソン大会を小中高合同で計画的に準備を進め、実施する。 	C	保小中高の合同マラソン大会は自粛により中止となった。校内での記録会に変更して取り組んだ。	行事の内容等を検証し、開催場所も含めて検討していく。開催に向けた体制を構築する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊防災訓練や年間4回の火山ガス、泥流、台風、地震等の自然災害に対する避難訓練を組織的・計画的に実施し、危機管理意識を醸成する。また、登下校時・校外学習時等における防災意識を醸成する。 	C	避難訓練は可能な範囲で工夫して実施した。宿泊防災訓練が中止となり、危機管理意識の向上とまでは至らなかった。	次年度、地域と連携した防災教育の推進を図っていく。そのための内容を工夫し、継続的に実践していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備の再点検を行い、校内での危険箇所等の修繕を含め、効果的な整備計画を作成する。 	A	経営企画室を中心として、年間を通して、校内での危険箇所点検等を行った。	常に危機管理意識の向上を図っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 防災用品備蓄倉庫の整備及び防災用品の充実を図る。 	A	経営企画室が中心となり備蓄倉庫及び防災用品を総点検及び整理した。	常に整理・確認をする体制を継続していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 警察と連携してテロ対策の避難訓練も実施し、緊急事態に備える。 	D	自粛により中止した。	危機管理意識の醸成に向けた取組を推進していく。
7	<ul style="list-style-type: none"> 複数の教職員の目で生徒の状況を観察して、異変に気づいたらすぐに報告する体制をつくる。 	A	生活指導部による毎朝の校門指導を行い、生徒の状況把握を図った。年3回のいじめのアンケート調査を行った。	教育相談委員会等を活用し、生徒の継続的な状況把握を行っていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 体罰を伴う指導はしない。また、体罰を伴う指導が起きないように研修会を行う。 	A	服務事故防止研修の実施や体罰調査を定期的に行い、体罰による指導が行われていないかをチェックした。	校内研修や実態の把握を継続して行っていく。
8	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放・公開講座・ボランティア活動・図書的一般貸し出し等により、地域貢献を推進する。 	D	体育館、剣道場、柔道場、図書館等の学校開放が自粛により、解放できなかった。グラウンド・テニスコートも自粛で十分な解放ができなかった。公開講座もすべて中止となった。	状況に応じて、次年度も継続して実施する。
	<ul style="list-style-type: none"> 三宅島復興・発展につながる島内のイベントに参加・協力・貢献する。 	C	保小中との連携を可能な範囲で行った。島内の行事が中止となり、貢献までには至らなかった。	状況に応じて、次年度も継続して実施する。
9	<ul style="list-style-type: none"> メダリストによる講演会を実施する。 	D	新型コロナウイルス感染症拡大防止措置により中止となった。	実施の方向性を継続的に検討していく
	<ul style="list-style-type: none"> 体育の実技の時間で、オリパラ関連競技を体験する。 	C	体育の授業で関連競技は実践できたが、十分な体験には至らなかった。	村の関連施設等を積極的に活用し、推進していく。
10	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心として、必要に応じ、個別の指導計画を作成する。 	B	個別の支援計画を作成するまでの生徒はいなかったが、教育相談委員会にて情報共有を図った。	状況に応じた対応を工夫していく。
11	<ul style="list-style-type: none"> 休暇等の積極的取得を推進する。また、教職員の在校時間の上限1月45時間、1年360時間を厳守する。 	A	勤務時間外の労働時間削減を掲げ、実践してきた。年休・夏休取得も推進できた。	継続的に実践していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症予防ガイドラインに基づき、状況に応じた適切かつ柔軟な教育活動を実施する。 	A	新型コロナウイルス感染症予防措置を高じた教育活動を柔軟に実践できた。	継続的に実践していく。